はなみどアルバム ＃はなみど

インスタグラムにて「はなみど」に
関する投稿の中から、
とっておきの一枚をご紹介

「吹田市花とみどりの情報センター」のインスタグラム更新中！みなさんのフォローお待ちしております。はなみどやおうちのすてきなみどりに関する写真を投稿するときは、ぜひハッシュタグ「＃はなみど」をつけてください。投稿していただいた写真の中から、「はなみどPAPER」でご紹介させていただきます。

miko11147239

多肉植物の寄せ植え講習に参加。
悩んで決めて組み合わせるってすごく楽しい！

＃はなみど出張講習 ＃多肉植物の寄せ植え

saki_2017_0306

小さなカメラマン。ガーデンのバラをパシャリ！

＃はなみど ＃インナーガーデン

tomo3hinano

春、満開のガーデンでお花見。
綺麗に咲いたお花に癒されます。

＃インナーガーデン ＃ベニバナトキワマンサク

nahodiary

ギャザリングを学び、自分でも花束みたいな寄せ植えにチャレンジ！お花から元気をもらいます。

＃はなみど講習会 ＃プランツ・ギャザリング

matonoji

地元の美味しいものがガーデンに登場！
音楽に包まれてガーデンは良い雰囲気でした♪

＃はなみどガーデンマルシェ ＃あおぞらコンサート

chika___o0

江坂はなみどから階段をのぼると、季節のお花を楽しめるインナーガーデンへ。

＃インナーガーデン ＃春色 ＃お花いっぱい

まちのみどり担当〔千里花とみどりの情報センター〕

阪急南千里駅前　千里ニュータウンプラザ1F
〒565-0862 吹田市津雲台1-2-1
[TEL]06-6155-1987 [FAX]06-6831-5087
[開館時間]10:00～18:00
[休館日]毎週月曜日、祝日、年末年始
※祝日が月曜日のときはその翌日も休館

うちのみどり担当〔江坂花とみどりの情報センター〕

北大阪急行江坂駅東　江坂公園内
〒564-0063 吹田市江坂町1-19-1
[TEL]06-6384-3987 [FAX] 06-6384-0024
[開館時間]10:00～18:00
[休館日]毎週月曜日、木曜日、祝日、年末年始
※祝日が月曜日、木曜日のときはその翌日も休館

講習会やイベントの最新情報はHPでもご紹介！
HP http://www.suitahanamido.com

※写真はイメージです。※内容は事前に変更となる場合がございます。
発行：吹田市花とみどりの情報センター　指定管理者：株式会社日比谷アメニス
取材：吹田市花とみどりの情報センター　編集・デザイン：G_GRAPHICS INC.

AMENIS　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

はなみどPAPER

はなとみどりの情報センター広報誌 | 2019.6-12月　TAKE FREE　7

特集 みんなで取り組むみどりのまちづくり

はなみど探検隊 07 | 今号の表紙　場所：千里南公園　写真：東郷 憲志

吹田市で人気の公園の1つが阪急南千里駅北側にある「千里南公園」。はなみど主催のイベント『花と緑のフェア』の会場でもあり、市民へ向けて公園の新しいつかい方を提案する場になっています。3姉妹のはなみど探検隊が遊んでいるのは野外ステージ。木のオブジェも彼女たちにかかれば遊具に変身です。

うちのみどり、まちのみどり

みんなで取り組む みどりのまちづくり

「はなみど」は千里と江坂の2拠点で産官学民みんなで取り組むみどりのまちづくりの実現を目指して「うち」と「まち」でアプローチしていきます。

市民の「やりたい」気持ちを育てる、広げる、つなぐ。

みどり豊かなまちに住みたいという思いは、誰しもが持っているもの。吹田市が“住み続けたいまち”であり続けるために、「はなみど」はこれまでの管理運営を通じて培われた基盤をもとに、市民参画・協働によるみどりのまちづくりを進めていく仕組みを強化していきます。「千里はなみど」は持続可能なみどりのまちづくりを実現するために、市民がみどりのまちづくりのサポーターとして活動できる支援や学びの場を用意。「江坂はなみど」は花とみどりの普及、学びの施設として取り組みます。みどりのまちづくりに関する市民の“やりたい”を調査し、一緒にイベントや講習会、みどりを守る活動を行なっていく試みです。

「はなみど」は各取り組みや活動において、国際社会共通の目標SDGs※へ貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※SDGs=「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。

＼まちのみどりの取り組み／

みどりと市民をコーディネート

- 市民と一緒にまちのみどりを守り育てる仕組みづくり
- みどりの拠点「公園」をもっと活用してもらえるサポート
- みどりと人に優しいイベントを通してみどりのまちづくりを発信

＼うちのみどりの取り組み／

みどりのある暮らしの提案

- 学校、施設などに出張園芸サポート
- 誰もが参加しやすい、市民のニーズに沿った講習会
- 毎週気軽に参加できる園芸相談
- 暮らしに寄り添うみどりの楽しみ方の提案

まちのみどりの役割

まちとみどりと人をつなぐコーディネーター

みどりのまちづくりを自分ごとに

市民の「やりたい」ことの背中を押すサポートを通して、みどりと人、市民と行政をつなぐプラットホームを目指します。もっと気軽に公園を「つかう」ためのサポートや活動の情報発信、産官学民連携で行うイベントやシンポジウム、セミナーを通してまちのみどりへの関心を深めています。

公園をもっと活用しよう

『すいた公園「つかう」プロジェクト』が始動！ 市民が公園でやりたいアイデアを実現するサポートを行います。イベントを通して公園の新しいつかい方を見える化していきます。

みどりのまちづくりをイベントを通して発信

「花と緑のフェア」や「みどりのまちづくりシンポジウム」を開催し、まちのみどりを感じる、考える場に。

うちのみどりの役割

暮らしを彩る うちのみどりのアドバイザー

出張園芸サポート

団地や学校花壇などで活躍するボランティアをサポート。花の選び方や育て方を継続的に指導します。

市民のニーズに沿った講習会

野菜づくりやランの育て方など家で実践できる園芸やガーデニングが学べます。

園芸相談を毎週金・土曜開催

「育てている植物の調子が悪い」など身近な花壇や庭木に関する相談を受け付けます。

イベントやワークショップ

花やみどりの魅力を伝えるマルシェやワークショップを市民協働で開催。みどりのボランティア活動の場づくりも行います。

うちのみどりがまちを豊かにする

身近な花やみどりを大切にすることが、まちのみどりを思う気持ちにつながる。「はなみど」では、市民が気軽に参加できる講習会や園芸相談を実施し、みどりの知識を深められる機会を設けています。イベントやワークショップは大人も子どもも楽しみながらみどりについて学べるのも魅力です。

うちとまちを彩る！

はなみどのアプローチ

プロジェクトやイベントなど「はなみど」のさまざまな取り組みを紹介します。

Project 公園が楽しいと「まち」がもっとステキに！ はじまる『すいた 公園「つかう」プロジェクト』

吹田にはみどり豊かな公園がたくさんあります。その公園を舞台に市民の素敵なつながりが生まれると暮らしが彩り、住み続けたいまちの魅力になると、「はなみど」は考えます。
「はなみど」の活動を通して聞こえてきた市民からの公園をつかってやってみたいたくさんのアイデア。そのアイデアをみなさんが実現するために「はなみど」がアドバイスや申請のサポートを行う『すいた 公園「つかう」プロジェクト』が始動しました。このプロジェクトでは「サポート」「セミナー」「ネットワーク」など3つの取り組みを行います。

公園を「つかう」アイデアをカタチにするために、企画に関するアドバイスのほか、「はなみど」が市民と行政をつなぐサポートを行います。
（※申請書類、情報発信、安全管理の確認、関係機関へつなぐサポートなど）

セミナー
企画づくりやアイデアを実現させるためのヒントを各分野のスペシャリストや他都市の事例から学びます。

ネットワーク
公園で活躍する市民、企業、学生、研究者等をつなぎネットワーク化する仕組みです。

■ 実際に公園をつかった事例

「はなみど」が一緒に連携した公園を「つかう」イベントに「吹田山田手作り市」があります。はなみどが関係機関とのコーディネートを行い、利用の手続きをサポート。神社の参道から始まった手作り市は、近くの公園もつかうことで様々なお店が立ち並び、新たな賑わいが生まれました。

＼すいた公園「つかう」セミナーを開催！／

各分野のスペシャリストが登壇し、市民が公園でやってみたいことを実現するためのヒントを伝えるセミナーです。今年度はランドスケープデザイナー、広場ニスト、マーケット研究者という3者の視点から公園を「つかう」可能性を探ります。

- ■第1回　6.22（土）｜株式会社E-DESIGN代表取締役
  ランドスケープデザイナー/まちづくりプロデューサー【忽那裕樹氏】
- ■第2回　9.7（土）｜広場ニスト
  ひと・ネットワーククリエイター【山下裕子氏】
- ■第3回　12.14（土）｜O+Architecture主宰
  建築家/マーケット（市・マルシェ）専門家/博士（工学）【鈴木美央氏】

第1回

まちづくりプロデューサー直伝！ イケてる公園のつかい方

数多くのまちづくりプロジェクトを手掛ける忽那裕樹さんが「イケてる公園のつかい方！」をレクチャー。アイデアや企画を考える時に共通して大切なことは①まちの魅力を使いこなす②楽しみを分かち合うこと③まちに誇りと愛着をもつ、この3つだと忽那さんは言います。参加者からは「公園で企業の会議をやってみたい」、「地域の方を巻き込んで活動するにはどうしたらいいの」などたくさんのアイデアや疑問の声が上がりました。

Sympo sium 第2回みどりの まちづくりシンポジウム

2019年2月24日（日）

みどりあふれる吹田市の樹木の適正な管理とこれからの取り組みを一緒に考える「みどりのまちづくりシンポジウム」を開催。行政や中間支援組織である「はなみど」がそれぞれの役割を担いつつ、市民参画による樹木の管理を目指します。都市樹木が抱える問題と海外などの先進的な政策の発表を受け、自分の街ではどのようなことから始められるかディスカッションが行われました。一人でも多くの市民が取り組みに関わりたくなるには「楽しさ」が伝わる多様な視点からのアプローチが大切で、「はなみど」では市民と一緒に調査やイベントを通して、街の木を守り育てる取り組みが動き出します。

Lecture 花とみどりをまちやうちに ガーデンセミナーが バージョンアップ！

季節のお手入れを中心に、プロのガーデナーから園芸の技術を教わることが出来るガーデンセミナー。今年は市民の声とニーズに合わせてバージョンアップしました。

江坂 ハーブガーデンづくり大作戦

江坂はなみどインナーガーデンをフィールドにハーブガーデンを参加するみなさんと作っていきます。実際に土にふれてもらい、香りを楽しみながらガーデニングの基礎を学べると大好評。種まきから収穫まで、実践的にレクチャーします。

開催日　9/10、10/8、11/12、12/10、2/18、3/10 ※火曜日開催 ※要予約
講師　人・花・緑のプランニング一絵 平井佐代子

千里青山台 コミュニティ花壇の手入れ

コミュニティ花壇をめぐりながら、園芸のプロに知りたい季節のお手入れを教えてもらうセミナーです。次のシーズンに向けて花壇に植えるおすすめの植物や病害虫対策などの相談やアドバイスも行っています。

開催日　7/20、9/21、11/30、3/14 ※土曜日開催 ※要予約
講師　ガーデニングショップ Green note… 店長 曽谷恵美

はなみどレポートカレンダー

2019

1月
- **咲くやこの花館ツアー**

2月
- **カカオを味わう！本格チョコ作り**

3月
- **ガーデンマルシェ**
  春の香りに包まれたガーデンで美味しい、楽しいがいっぱいのマルシェ。地元の素敵なお店が集まりました。園芸ワークショップやコンサートで春のガーデンを満喫。
  次回開催予定：2019.9.22（日）

4月
- **春夏野菜のつくり方 ここがポイント**

5月
- **はなみどの日**
  みどりの日にちなみ「みどりのある暮らし」を提案するイベントを開催。多肉植物の寄せ植えやハーブの使い方ワークショップ、スタッフ一押しの植物が並ぶバザールが登場しました。

木とともだちになる

知ること、あそぶことで、当たり前にある木が身近な存在に！

謎に包まれた青く蛍光する樹液

アオダモ（別名コバノトネリコ）はモクセイ科トネリコ属で、春に白い花が咲き、飛ぶ種ができる。材は強くねばりがあり野球のバットに良いが、成長が遅くなかなか手に入らない。イチロー選手が愛用していた木製バットもこの木だ。同属のシマトネリコは常緑で形が良いと住宅に盛んに使われているが、すぐ大きくなるので、最近はアオダモが出回っている。アオダモの木は蛍光物質を含み、枝の切り口を水に浸し、うす暗い場所で紫外線をあてると青く蛍光する。木の枝から蛍光の青い樹液が出るなんて思ってもいないから、誰もがすごく驚く。もやもやと樹液が出る様子を「オーロラみたい」「クラゲみたい」と感動する子も。しかもその枝できれいな蛍光の線がかけるなんて、2度びっくり！！ 子どもたちは早く書いてみたくてたまらなくなるのだ。この青い樹液は何か、はっきりとわかっていないが、蛍光物質自体は珍しいものではなく、いろいろな動植物に見られるようだ。昔の人は木漏れ日の下、この青い樹液を見て「アオダモ」とつけたのだろう。ちなみにUVライトは「猫のおしっこ探し」として売られているが、光っているのはビタミンB2で、アオダモとは別物らしい。

▼アオダモの花

▼アオダモの種

＼ 岩谷先生流 ／

木とあそぼう！

昔の人の知恵に学びつつ、今風にアレンジしたあそびをご紹介。木とあそぶ体験がきっかけで、身近な木とともだちのような関係になれるかも。みどりを大切に思う気持ちがあなたの心に芽生えますように。

アオダモ枝の蛍光ペン

用意するもの

- □ アオダモの枝（マルバアオダモ、トチノキの枝でも）
- □ 剪定ばさみ
- □ 透明なコップ
- □ 水
- □ UVライト（100均のシークレットペンでもOK）
- □ 安いコピー用紙（再生紙は蛍光剤が入っているので×）

場　所

うす暗い場所を選ぶ（真っ暗でなくてもOK）

※UVライトの光は有害なので、目や皮膚、人に当てないよう注意しましょう。

STEP 1　樹液を採取

透明なコップに水を入れ、UVライトで照らしながら、枝をコップにいれると、もやもやと蛍光色の樹液が出ているのが見えます。ライトを当てないと透明のままです。

STEP 2　描く

枝に水を少しつけて紙に書きましょう。塗り絵をしても面白いです。安くて白いコピー用紙のほうが蛍光に見えるのでおすすめ。

POINT　先端を切る

蛍光色が出なくなったら、剪定ばさみで先端を切るとまた書けます。枝が乾いても、ポリ袋に入れ湿らせてしばらくおき、先端を切ると樹液が出ます。

他の木でも応用できます。

アオダモの他にもトチノキ類も蛍光の樹液が出ます。シマトネリコ、オリーブ、ニセアカシア、アジサイ、アカメガシワなども出ますが、量は少ないです。探せば他にもあるかもしれません！

＼教えてくれた人／ **岩谷美苗**さん

1967年島根県生まれ。東京学芸大学卒業後、森林インストラクター第一期の試験に合格し、女性初の森林インストラクターとなる。1998年、樹木医に。2000年、「NPO法人樹木生態研究会」を設立。現在、「街の木らぼ」代表。「木で笑いが取れたら幸せ」をモットーに、講演・出張授業等を多数おこなう。著書に『散歩が楽しくなる 樹の手帳』（東京書籍）、『子どもと木であそぶ 樹木医が教える「木あそび」ガイド』（東京書籍）など多数。